

讃美歌誕生当時のアメリカ

奴隷制廃止論争に国が揺れる中でゴスペル(*1)が普及し始め、信仰復興運動によりキリスト教会の教勢が飛躍的に伸びた時代です。

*1 ゴスペル (音楽)

19 世紀頃、黒人奴隷の過酷な生活に源を有する音楽ジャンルであり、黒人奴隷解放運動やプロテスタント教会の礼拝歌唱などが起源とされています。

歌詞の誕生

作詞者アニー・シャーウッド・ホークス(Annie Sherwood Hawks , 1835-1918)は、ニューヨーク州のフーシックという町に生まれました。彼女は少女時代から文才を発揮し、14 歳の時に応募した詩の懸賞募集に当選したことから、彼女の詩が毎週新聞に掲載されたほどです。

24 歳のとき、チャールズ・ホークスというクリスチャンの男性と結婚、ニューヨークのブルックリンに移り住み、バンサン・プレース・バプテスト教会へ転会しました。その教会のローリー牧師は、後にこの讃美歌の作曲者になりましたが、彼女に讃美歌を書くことを勧めました。信仰を養われ神への賛美が溢れていた彼女は、生涯に約四百の讃美歌を書いたといわれていますが、現在でも歌われているのはこの歌だけです。

この讃美歌が産まれた時の事を彼女自身が手記に記しています。その時彼女は 37 歳の平凡な主婦で、三人の子どもたちの母親でした。

「1872 年 6 月のある晴れた日の朝のこと、わたしは突然、主が近くにいますのを身に感じました。喜びにつけ、悲しみにつけ、主がいまさねば誰一人として生きられないことを、その時はじめて実感したのです。この讃美歌の歌詞が次々に頭に浮かんで心に広がっていきました。」

各節が「私は毎時間あなたを必要とします」で始まり、イエスが近くにおられると誘惑に勝つことができます、喜び悲しみにつけて、近くにいてください、私をあなたのものとしてください、と歌う大変シンプルな讃美です。

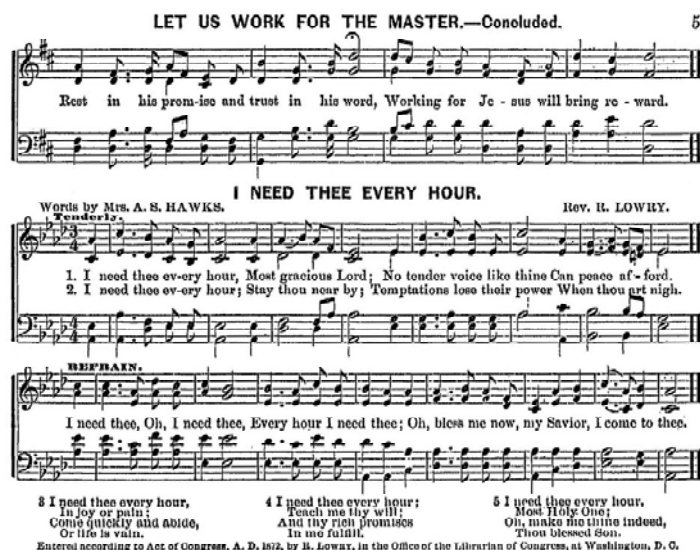
讃美歌の誕生(作曲)

ホークス夫人の詩にメロディーを付けたのは、彼女が所属していた教会のロバート・ローリー(Robert Lowry 、1826-1899)牧師です。

彼は作曲に際して、ゴスペル調のリフレイン(繰り返し部)をも追加しました。このリフレインがあることで、讃美歌 5 節すべてが歌われると 20 回も「I need Thee」が繰り返されます。これは、当時の讃美歌作者が使用した一般的な手法だそうです。

彼はフィラデルフィアの出身で、大学卒業後バプテスト教会の牧師になり、南北戦争(1861-65)中にニューヨークのブルックリンにあるバンサン・プレース・バプテスト教会で 8 年牧会しました。その間に、作詞者ホークス夫人との“歴史的出会い”が起きました。彼による讃美歌は、この「恵み深き」以外に、「うき世の嘆きも」(讃美歌 530 番)、「今日をも送りぬ」(讃美歌 535 番)、「み墓ふかく」(讃美歌 II 190 番)が収録されています。

福音は讃美歌に乗って世界へ



この讃美歌「I need Thee every hour」は、1872年の全米バプテスト連盟日曜学校大会（1872年11月20日から22日までオハイオ州シンシナティのナインス・ストリート・バプテスト教会で開催）用の『福音唱歌』という小さな歌集で公開されました。

図1. 全国バプテスト日曜学校大会のために特に準備された新しい神聖な歌(シンシナティ、1872年)

<https://images.squarespace-cdn.com/content/v1/5b11858da2772cf01402ee6e/f55e61c0-e740-420e-9844-95c6e2ad8476/NewSacredSongs-1872ex.jpg?format=1000w>



この讃美歌が好評でしたので翌年ローリー牧師は日曜学校用讃美歌集に転載しました。

図2. 日曜学校のため王冠(ニューヨーク州、1873年)。

https://images.squarespace-cdn.com/content/v1/5b11858da2772cf01402ee6e/1553709181604-DIEGL0VBAG5T8DPL5GG9/INeedThee-RoyalDiadem-1873_001a.jpg?format=1500w

その讃美歌の見開きには、ホークス夫人が作詩した時に心に浮かんだ次の聖句が書かれていました。

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである」(ヨハネ 15:5)

その後、第三次信仰復興運動(*2)の集会でよく歌われ、広く英語国民の間に広まりました。

*2 第三次信仰復興運動 (第三次大覚醒)

循環的な信仰復興(リバイバル)はアメリカのキリスト教の特徴で、第三次は概ね1850年代後半から1900年代までの期間を指します。英語圏から世界に広まった社会福音運動、世界伝道運動等の運動を促進した一方で、教義学(英語: Dogmatic theology)を重視する教会からは熱狂主義に偏向していると批判を受けました。

以上